

# おぼれる



4歳以下では家庭内の浴槽でおぼれる事故が多く、5歳以上になると屋外での溺水事故が増えます。子どもがおぼれる事故を経験した保護者の8割以上が「悲鳴や助けを求める声が聞こえなかった」とも言われます。おぼれるとき、子どもは声を出さず、静かに沈むのです。たった3cm以上の深さがあれば、乳幼児はおぼれる可能性があります。おぼれてもすぐに引き上げ、その直後から泣いているならほとんど心配ありませんが、反応がないようならすぐに救急車を呼びましょう。



## 応急処置のポイント

泣かずに  
ぐったり

名前を呼んだり  
軽く叩いて反応をみましょう



反応が  
ある

水を吐かせる目的で  
軽く背中を叩きましょう



反応が  
ない

すぐに救急車をよび、  
胸骨圧迫を行きましょう



呼吸もなく  
呼びかけても  
反応がない

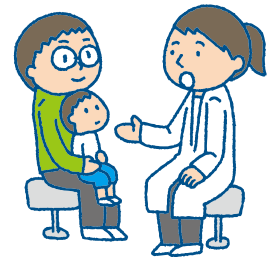
救急車を呼んで  
すぐに心肺蘇生を  
行いましょう



乾いた衣服に  
着替えさせたり  
毛布に包んで  
保温しましょう



おぼれた場合には  
救急外来を受診した  
ほうが良いでしょう



## 事故(傷害)予防のポイント 家庭

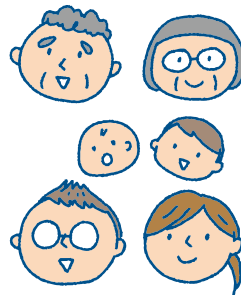
浴室に鍵をかけて  
子どもが入ることが  
できないように  
しましょう



おとなが髪を  
洗っている間は  
子どもを浴槽から  
出しましょう



小さな子どもの入浴  
には、なるべく  
複数の大人が関わる  
ようにしましょう



入浴後は浴槽の  
お湯を抜きましょう



入浴時に浴槽で浮き輪は  
使わないようにしましょう



## 屋外

ライフジャケットを  
着用しましょう



川の急な増水に備えるなど  
事前に気象情報を確認  
しましょう



## 実際に あった事例

浴槽用浮き輪による溺水 injury Alert (傷害速報) No.4

母が浴室で洗髪中、浴槽で浮き輪を使用していた9か月男児が浴槽内で溺れた。発見時は反応がなかったが、数分で呼吸が再開。後遺症なく退院した。

## 主治医から のひとこと